

(仮 訳)

プレス・リリース

2014年1月23日  
バーゼル銀行監督委員会

**バーゼル銀行監督委員会が  
「銀行の資本政策に関わる重要な要素」を公表**

バーゼル銀行監督委員会(以下、バーゼル委)は、本日、銀行の資本政策実務の包括的な改善を促すサウンド・プラクティスを示した「健全な資本政策プロセス:重要な要素」を公表しました。

金融危機からの重要な教訓として、銀行による自身の資本政策に対する改善と強化の必要性が示されたことが挙げられます。例えば、資本政策において、包括的な観点が多分でなく、フォワード・ルッキングな視点が欠けており、或いは適切なルール化がなされていなかったという事例が散見されました。結果として、一部の銀行は自身の経営戦略に内包されているリスクを過小評価し、そして必要な資本に係る判断を誤ることになりました。健全な資本政策によって、様々な将来におけるシナリオ並びに業績を展望する銀行の経営戦略をサポートする、適正な資本の額及びその構成についての十分な情報に基づく判断が可能となります。